みやぎ食の安全安心消費者モニター
アンケート調査結果報告

アンケート対象者　「みやぎ食の安全安心消費者モニター」９３１人(平成２２年９月末登録者)
アンケート回答者数　５１３人（回収率　55.1%）
調査実施期間　平成２２年９～１０月
※一部，無回答，無効回答等も含まれ，その場合，「無回答　○%もしくは△人」としている。

アンケート回答者属性

・男女構成　（単位：人）

男性	女性	不明
133	379	1

・年代別内訳　（単位：人）

～30代	４０代	５０代	６０代	70代～	不明
54	91	117	150	100	1

※男女間，年代間の有意差については，有意水準５%で有意差検定を行っており，有意差のある項目は，数値を赤字で示している。

《結果概要》

Ⅰ　輸入食品について

半数以上の回答者が，輸入食品に対してマイナスイメージを持っているが，昨年度との比較では，「昨年より良くなった」と回答した人が「昨年より悪くなった」と回答した人を上回り，若干ながら輸入食品に対するイメージの改善傾向が見られる。

輸入食品の不安要素としては，回答が各項目にばらつき明確な差は見られなかったが，若い年代ほど「味や品質」等の食品そのものや「残留農薬」等の科学的要素への不安が高く，高齢の世代ほど「輸入取扱業者の信頼性」等の人為的要素に対する不安が高い傾向にある。

輸入食品に関する国や県の取組の認知度については，若い世代より高齢の世代の方が高い。

Ⅱ　食の安全安心について

約８割の回答者が食の安全安心全般について不安を感じているが，昨年度調査時（約９割）よりは低下しており，若干の好転が見られる。

特に，「残留農薬」，「残留抗生物質」，「環境汚染物質」等に対する不安が強く，昨年度調査時にトップであった「輸入食品の安全性」に対する不安は減っている。

食品の安全安心を確保するために大変重要だが，十分に行われていないと認識されている取組として，「輸入食品の検査体制の強化」，「違反，事件，事故の速やかな情報公開」，「食品の衛生・監視指導の強化」等が挙げられている。

Ⅲ　行政（県）に対する要望等について

食品表示ウォッチャーへの参加希望は７割弱で，調査項目としては「原産地（国）名」，「食品添加物」，「原材料名」等に関心が高い。

食の安全安心基礎講座（仮）への参加希望は７割弱で，講義内容としては「食品添加物」，「残留農薬」，「輸入食品」等の希望が高い。

食品工場見学会や生産者との交流会への参加希望は７割強で，食品工場見学会の方が生産者との交流会より若干参加希望が多いが，希望分野に明確な差は見られない。

Ⅰ　輸入食品について

問１－１　輸入食品に対するイメージはどうですか。（単一回答）

１　良い	２　やや良い	３　どちらとも言えない	４　あまり良くない	
５　良くない	６　その他			

輸入食品に対するイメージは，「良くない」（14.2%），「あまり良くない」（37.6%）を合わせて51.8%と半数以上の回答者がマイナスイメージを持っており，プラスイメージを持つ回答者は「良い」（0.8%），「やや良い」（8.6%）を合わせても9.4%と少なかった。

男女間，年代間に有意差は見られない。

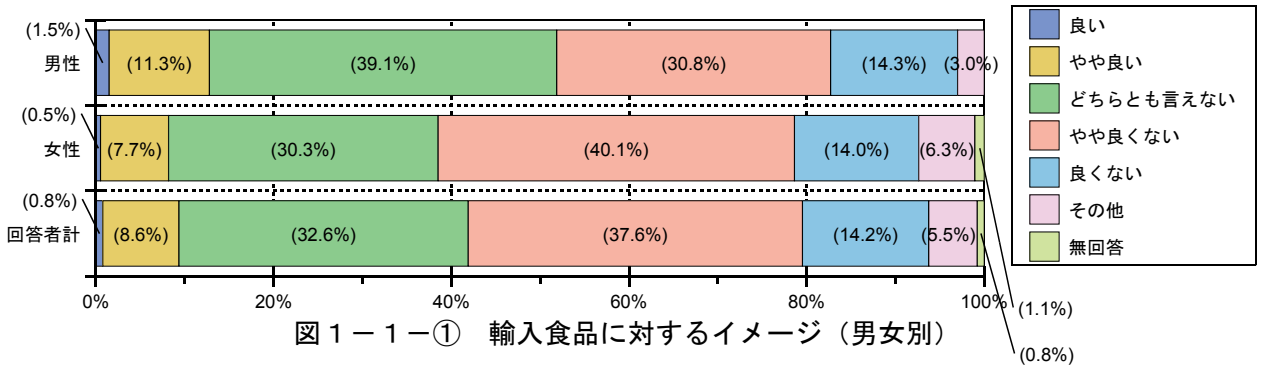

図１－１－①　輸入食品に対するイメージ（男女別）

問１－２　輸入食品に対するイメージは昨年と比較してどうですか。（単一回答）

１　昨年より良くなった	２　昨年と変わらない	３　昨年より悪くなった
４　その他		

輸入食品に対するイメージの昨年との比較では，多くの回答者（76.8%）が「昨年と変わらない」と回答しているが，「昨年より良くなった」（14.0%）が「昨年より悪くなった」（6.6%）を上回っており，若干ながら輸入食品に対するイメージの改善傾向が見られる。

男女間，年代間に有意差は見られない。

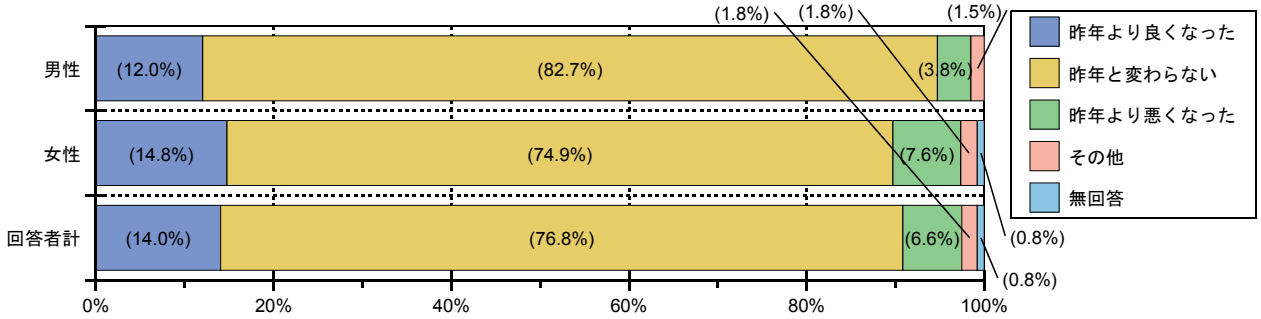

図１－２－①　輸入食品に対するイメージの昨年との比較（男女別）

問２－１　輸入食品に不安を感じる場合，どのような部分が不安ですか。（複数回答）

①生鮮食品の場合

1	鮮度	2	味や品質	3	安全性
4	食品表示（偽装表示）	5	輸入取扱業者の信頼性	6	問題発生時の対応
7	特に不安な部分はない	8	その他		

輸入食品に不安を感じる部分については，生鮮食品の場合は，「安全性」（26.7%），「食品表示（偽装表示）」（18.9%），「輸入取扱業者の信頼性」（17.2%）の順であり，「安全性」が若干高いものの回答が各項目にばらついており，不安要素が多方面にわたっていることがうかがえる。

男女間，年代間に有意差は見られない。

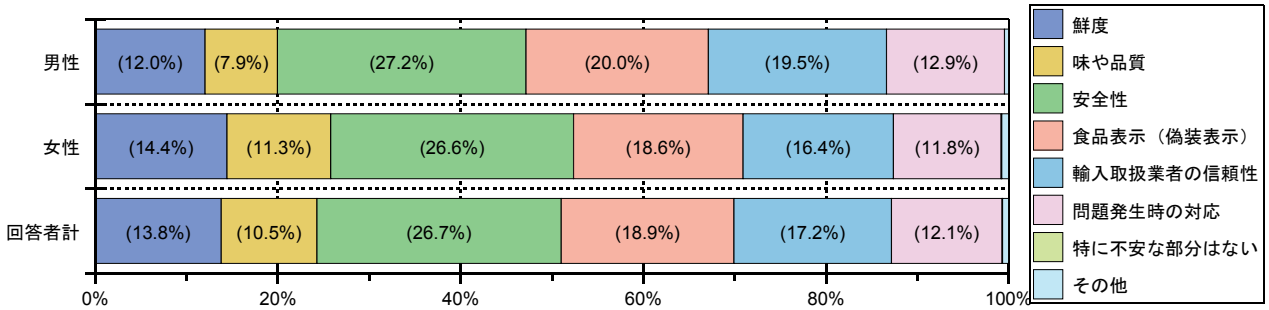

図２－１－①　輸入食品に不安を感じる部分（生鮮食品の場合，男女別）

②加工食品の場合

1	鮮度	2	味や品質	3	安全性
4	食品表示（偽装表示）	5	輸入取扱業者の信頼性	6	問題発生時の対応
7	特に不安な部分はない	8	その他		

加工食品の場合は，加工食品という性格上，「鮮度」は低くなっているが，その他の項目については生鮮食品と同様の傾向が見られる。

男女間，年代間に有意差は見られない。

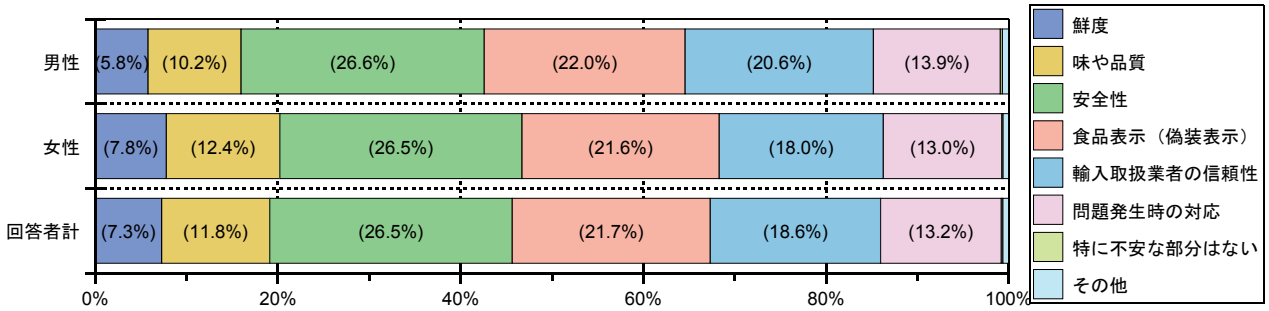

図２－１－③　輸入食品に不安を感じる部分（加工食品の場合，男女別）

問２－２　安全性に不安がある場合，どの部分が不安ですか。（複数回答）

１　残留農薬	２　食品添加物	３　遺伝子組換え	４　抗生物質・抗菌剤	
５　製造（加工）方法	６　製造者による製品の管理（チェック）体制	７　その他		

安全性に不安がある場合の不安要素については，「残留農薬」（20.8%），「食品添加物」（20.0%），「製造者による製品の管理（チェック）体制」（16.3%）の順であるが，回答が各項目にばらついており，この回答からも不安要素が多方面にわたっていることがうかがえる。

男女間，年代間に有意差は見られない。

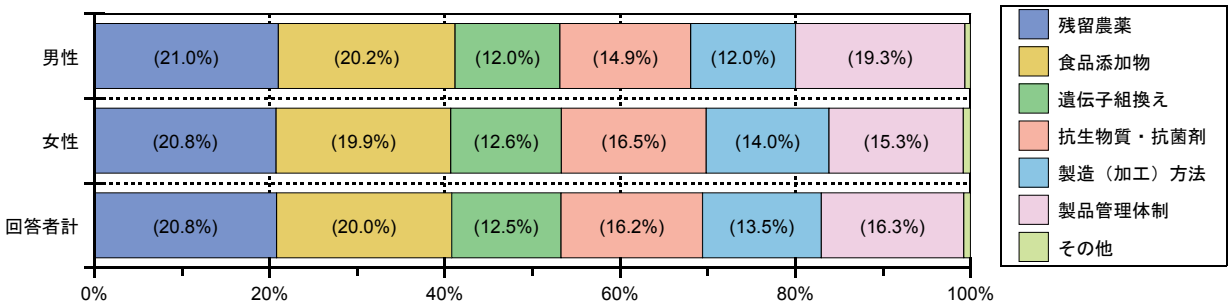

図２－２－①　安全性で不安を感じる部分（男女別）

問３　購入時，輸入食品を選ぶ時の目安は何ですか。（複数回答）

１　品目と原産国のマッチ（○○なら△△国でも大丈夫…等）			
２　価格	３　ブランド	４　信頼できる店（小売店）	
５　原材料・添加物等	６　表示内容	７　味	８　その他

輸入食品を選ぶ時の目安としては，「品目と原産国のマッチ（○○なら△△国でも大丈夫…等）」（20.9%），「原材料・添加物等」（19.8%），「信頼できる店（小売店）」（17.9%），「表示内容」（16.8%）が多い。

男女間に有意差は見られない。

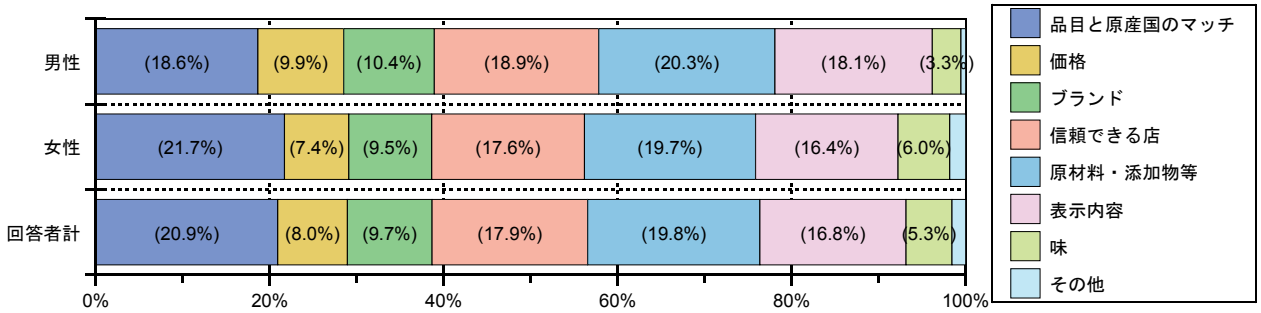

図３－①　輸入食品を選ぶ時の目安（男女別）

年代間には有意差があり，30代以下は他の年代より「価格」が高く「表示内容」，「味」が低い。同様に40代では「価格」が，逆に60代では「価格」，「ブランド」が低くなっており，若い世代ほど食品の「価格」を目安にしていることがうかがえる。

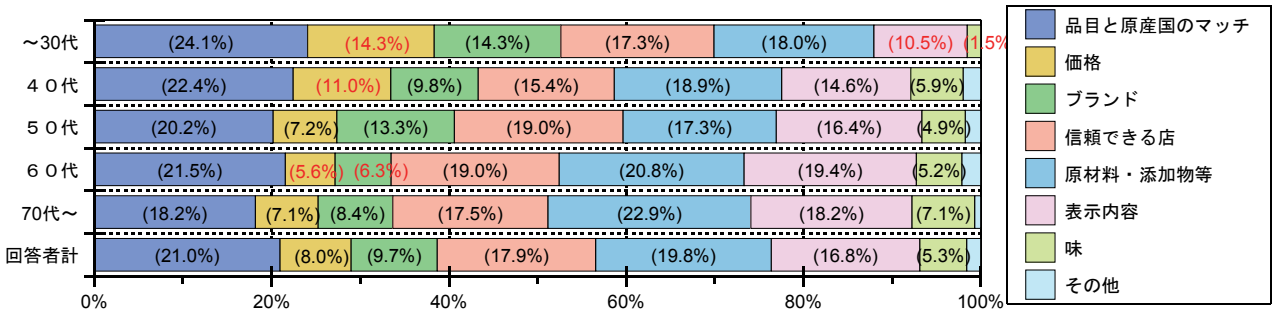

図３－②　輸入食品を選ぶ時の目安（年代別）

※　赤字は有意差のある項目である。（以下，同じ）

問４　安心して輸入食品を買うにはどのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

1	鮮度，味，品質の確保	2	行政による安全性の確保（監視・指導等）
3	適正な食品表示	4	問題発生時の対応の明確化
5	輸入業者に関する情報提供	6	国外の生産者や加工業者に関する情報提供
7	価格が安ければ，多少の不安要素は目をつぶる	8	その他

安心して輸入食品を買えるための要件としては，「行政による安全性の確保（監視・指導等）」（23.0%），「適正な食品表示」（20.4%）が多少高いが，その他の項目も12～16%程度とばらつきが見られる。「価格が安ければ，多少の不安要素は目をつぶる」を選んだ回答者は４名とごく僅かである。

男女間，年代間に有意差は見られない。

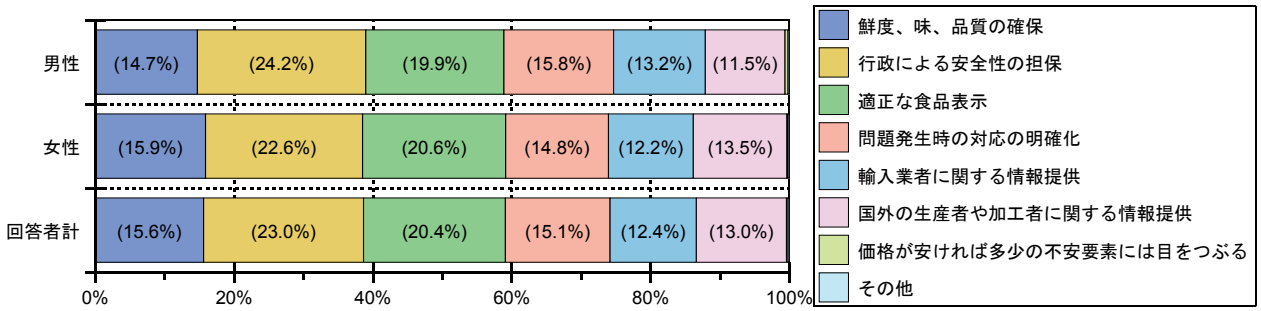

図４－①　安心して輸入食品を買うために必要なこと（男女別）

問５　輸入食品に関する国や県の取組について，どのくらい知っていますか。
（単一回答）

１　どのような取組をしているか具体的に知っている				
２　取組をしていることは知っているが，具体的な内容はあまり知らない				
３　聞いたことはある	４　あまり知らない	５　知らない	６　その他	

輸入食品に関する国や県の取組の認知度については，63.0％の回答者が「取組をしていることは知っているが，具体的な内容はあまり知らない」と回答しており，次いで「あまり知らない」が22.4％と，輸入食品に関する国や県の取組の認知度はあまり高いとはいえない。

男女間に有意差は見られない。

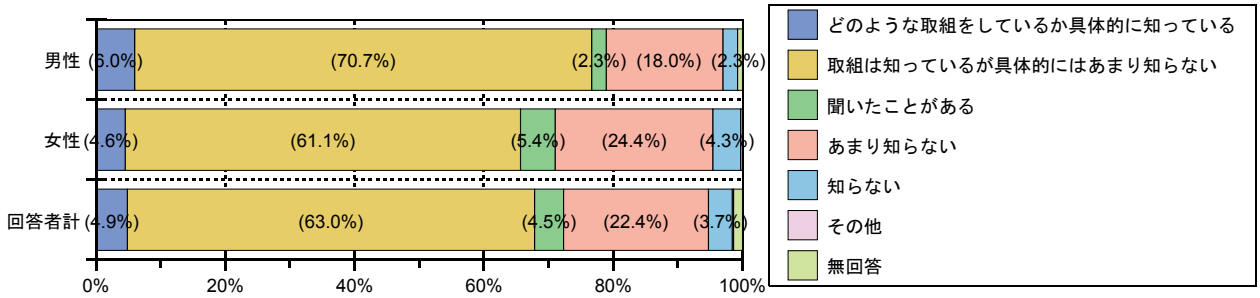

図５－①　輸入食品に関する国や県の取組の認知度（男女別）

年代間には有意差があり，30代以下は他の年代より「取組をしていることは知っているが，具体的な内容はあまり知らない」が低く「知らない」が高い。40代は「取組をしていることは知っているが，具体的な内容はあまり知らない」が同様に低く「あまり知らない」が高い。逆に70代以上では「取組をしていることは知っているが，具体的な内容はあまり知らない」が高く「あまり知らない」が低い。若い年代よりは高齢の年代の方が輸入食品に関する国や県の取組の認知度は高いといえる。

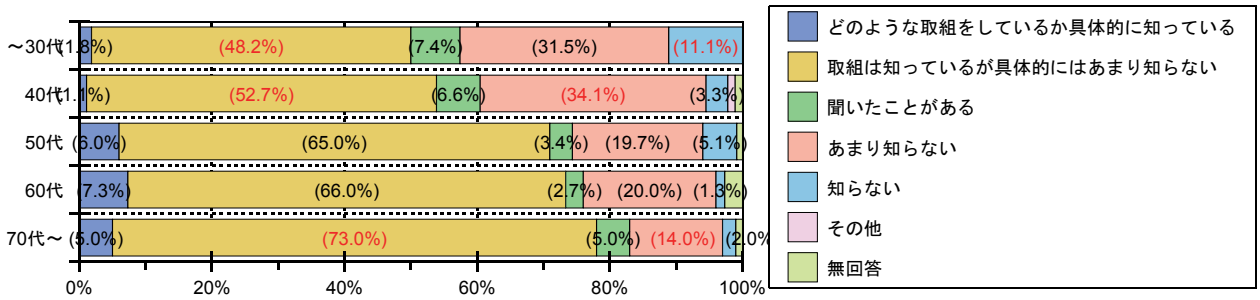

図５－②　輸入食品に関する国や県の取組の認知度（年代別）

問６　輸入食品に関する国や県の取組で，さらに強化すべき対策は何だと思いますか。（複数回答）

１　法規制，罰則の強化	２　行政による検査，監視の強化
３　輸入食品関連事業者への指導の強化	４　消費者に対する輸入食品関連情報の提供
５　政府間の協定の枠組み作り	６　その他

さらに強化すべき対策としては，「行政による検査，監視の強化」（27.8%），「輸入食品関連事業者への指導の強化」（23.3%），「消費者に対する輸入食品関連情報の提供」（20.8%），「法規制，罰則の強化」（17.9%）の順となった。

男女間，年代間に有意差は見られない。

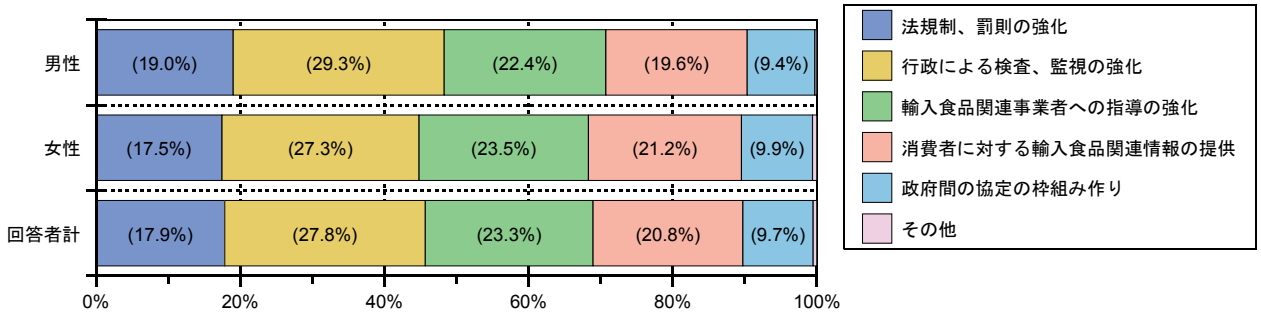

図６－①　さらに強化すべき取組（男女別）

問７　国内産（又は県内産）と輸入食品との関係はどうあるべきだと思いますか。（自由記述）

集計は省略。

Ⅱ　食の安全安心について

問８　食の安全安心全般について不安を感じていますか。（単一回答）

1　不安を感じる	2　やや不安を感じる	3　どちらともいえない
4　あまり不安を感じない	5　不安を感じない	6　その他

食の安全安心全般に対する不安については，「不安を感じる」（26.3%），「やや不安を感じる」（53.8%）を合わせて80.1%と，ほとんどの回答者が食の安全安心全般について何らかの不安を感じている。

ただし，昨年度（平成21年度）のアンケート調査結果では，「不安を感じる」，「やや不安を感じる」を合わせて90.6%であり，食の安全安心についての不安感に若干の好転が見られる。

男女間には有意差があり，男性は女性に比べて「あまり不安を感じない」，「不安を感じない」の割合が高い。なお，年代間に有意差はない。

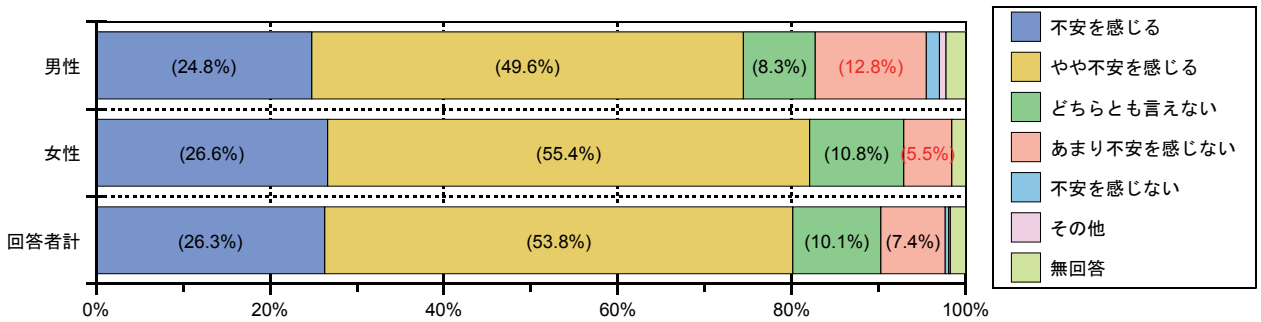

図８－①　食の安全安心全般についての不安（男女別）

また，昨年度と２年連続の回答者が320名あり，その回答の変化をみると，昨年度のアンケートで「不安を感じる」との回答者200名中，今年度のアンケートでも昨年度と同様の「不安を感じる」と回答したのは61名（30.5%）で，101名（50.5%）は「やや不安を感じる」に移行しており，逆に，昨年度「やや不安を感じる」との回答者115名中，今年度も昨年度と同じ「やや不安を感じる」と回答したのが65名（56.5%）で，昨年度より不安の度合いが高い「不安を感じる」に移行したのが29名（25.2%）となっており，不安感の度合いに軽減の傾向が見られる。

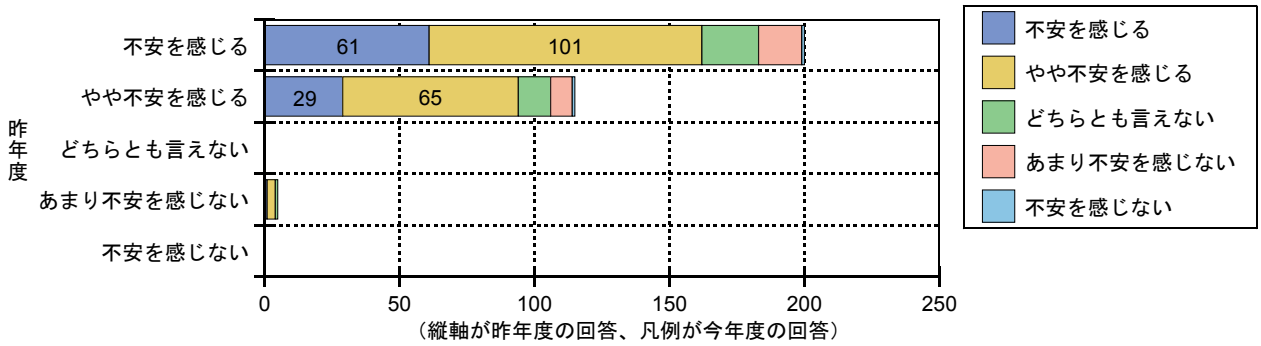

図８－②　食の安全安心についての意識の年次変化

問９　食品の安全安心について，項目各々に，どれくらい不安を感じていますか。（５段階評価）

1	食品添加物について	2	残留抗生物質について	3	環境汚染物質について
4	残留農薬についてい	5	異物混入について	6	アレルギー物質について
7	有害微生物について	8	家畜伝染病について	9	遺伝子組換え食品について
10	産地表示の信頼性	11	期限表示の信頼性	12	成分表示の信頼性
13	健康食品の安全性	14	輸入食品の安全性	15	その他

評価	1　強く感じている	2　やや感じている	3　どちらともいえない	4　あまり感じていない	5　全く感じていない

不安を感じている項目としては，「残留農薬」（4.42点）がトップで，次いで「残留抗生物質」（4.33点），「環境汚染物質」（4.32点），「輸入食品の安全性」（4.29点），「食品添加物」（4.26点）の順である。

昨年度のアンケート調査結果では，「輸入食品の安全性」がトップで，次いで「残留農薬」，「残留抗生物質」，「環境汚染物質」，「食品添加物」の順であり，「輸入食品の安全性」への不安が若干軽減されてきている。

男女間，年代間ともに有意差は見られない。

表2　項目各々についての不安（男女別）

項目	男	女	回答者計
1　食品添加物	4.21	4.28	4.26
2　残留抗生物質	4.22	4.36	4.33
3　環境汚染物質	4.23	4.34	4.32
4　残留農薬	4.34	4.45	4.42
5　異物混入	3.73	3.92	3.87
6　アレルギー物質	3.48	3.51	3.50
7　有害微生物	3.91	3.90	3.90
8　家畜伝染病	4.05	4.03	4.03
9　遺伝子組換え食品	3.83	3.93	3.91
10　産地表示の信頼性	3.94	3.72	3.78
11　期限表示の信頼性	3.82	3.56	3.63
12　成分表示の信頼性	3.80	3.66	3.69
13　健康食品の信頼性	3.81	3.87	3.85
14　輸入食品の信頼性	4.26	4.29	4.28

※ポイントは，「強く感じている」を５点，「やや感じている」を４点，「どちらとも言えない」を３点，「あまり感じない」を２点，「全く感じない」を１点とし，平均したもの。

ついで，問８の食の安全安心全般についての不安と，問９の項目各々についての不安との関連について，満足度調査（ＣＳ分析）の手法を用いて分析を行った。その結果，各項目についての不安度（満足度）と，食の安全安心全般への不安と各項目についての不安度との相関性を示す影響度（重要度）との関係性から得られる改善すべき度合い（改善度）の高い項目としては，「食品添加物」，「残留農薬」，「残留抗生物質」，「輸入食品の安全性」，「成分表示」の順となった。

すなわち，問９の調査結果だけを見ると，「食品添加物」は5番目となっているが，食の安全安心全般に対する不安を軽減するためには，「食品添加物」や「残留農薬」など改善度の高い項目に対する不安ほど優先的に軽減すれば，その効果が高いといえる。

なお，「輸入食品の安全性」については，昨年度の調査結果では改善度が2番目であったが，今回の調査では5番目となっており，ここでも輸入食品の安全性に対する不安意識が軽減されてきていることがうかがえる。

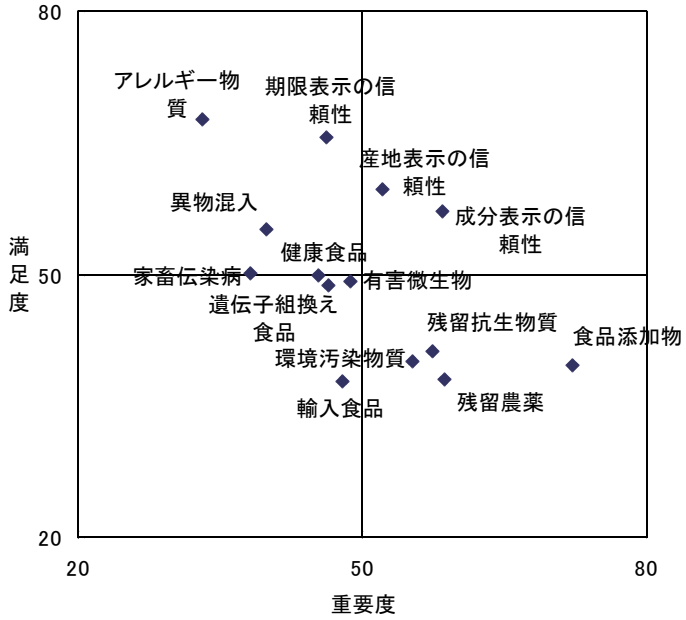

図9－②　不安項目のCS分析

表2　各項目に対する改善度

順位	項目	改善度
1	食品添加物	19.0
2	残留農薬	13.3
3	残留抗生物質	10.9
4	環境汚染物質	9.0
5	輸入食品の信頼性	4.8
6	成分表示の信頼性	0.6

問10　昨年と比較して，食の安全安心について意識の変化がありましたか。（単一回答）

1	不安を感じるようになった	2	やや不安を感じるようになった		
3	変わらない	4	やや不安を感じなくなった		
5	不安を感じなくなった	6	以前から不安に思っていない	7	その他

昨年と比較して食の安全安心に関する意識は，「変わらない」（56.9%）が一番多いが，「不安を感じるようになった」（13.1%），「やや不安を感じるようになった」（17.2%）を合わせて30.3%で，「やや不安を感じなくなった」（9.6%），「不安を感じなくなった」（0.4%）を合わせて9.9%と，不安を感じるようになった回答者が不安を感じなくなった回答者を上回っており，不安の度合いが増しているように見え，これは問８での昨年度の調査結果との比較とは逆の傾向を示している。

男女間に有意差があり，男性は「やや不安を感じるようになった」と「不安を感じなくなった」の割合が高く，女性は「変わらない」の割合が高い。男性の方が女性より意識の変化が多少大きい。なお，年代間に有意差はない。

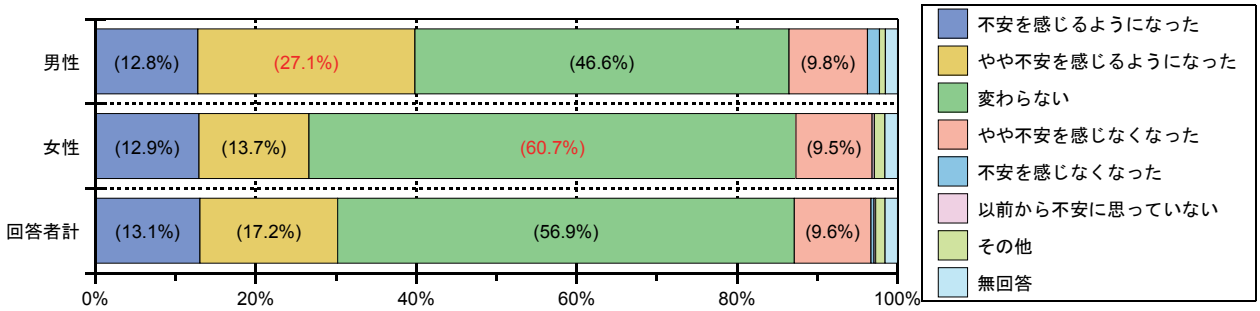

図10－①　昨年と比べた食の安全安心についての意識変化（男女別）

また，昨年度と２年連続の回答者が371名あり，その回答の変化をみると，昨年度のアンケートで「不安を感じるようになった」との回答者160名中，今年度のアンケートで「不安を感じるようになった」と回答したのは22名，「やや不安を感じるようになった」と回答したのが18名，「変わらない」と答えたのが100名，「やや不安を感じなくなった」と答えたのが16名と，一昨年から昨年，昨年から今年と，より不安の度合いを増している回答者が多いように見える。

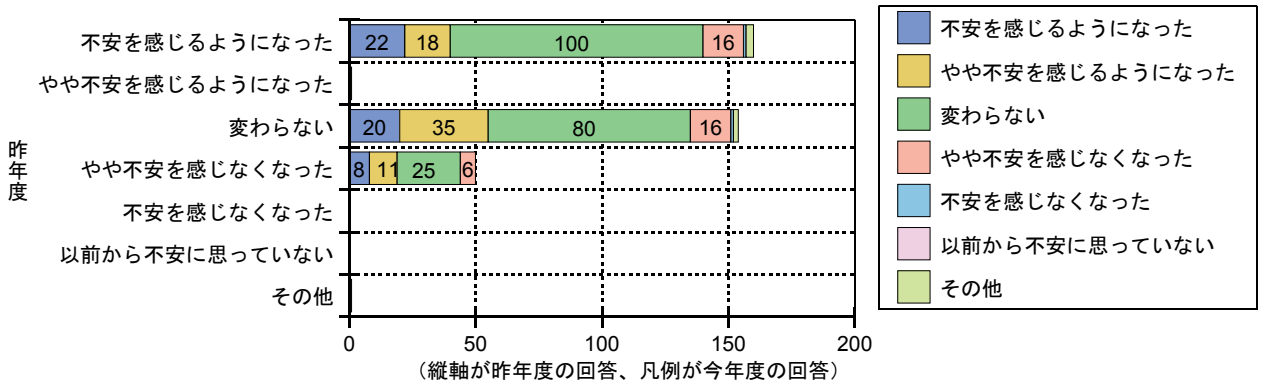

図10－②　食の安全安心についての意識の年次変化

しかしながら，詳しく検証してみると，昨年度の不安感の調査で「不安を感じる」と回答した回答者78名のうち，今年度の調査で，昨年に比較して「不安を感じるようになった」，「やや不安を感じるようになった」と昨年よりも不安感を増していると回答している回答者が56名あり，これらの回答者は，今年度の問８の不安感の調査でも全員が「不安を感じる」と回答してもおかしくないことになるが，実際には「不安を感じる」と回答したのは56名中19名（33.9%）のみで，残り37名（66.1%）が「やや不安を感じる」～「不安を感じない」と昨年よりも不安感が少なくなっている回答をしている。このことからすると，必ずしも，全員が不安感が増している訳ではないと見られ，前述の，「一昨年から昨年，昨年から今年と，より不安の度合いを増している回答者が多いように見える。」とは必ずしも言い切れない結果となっている。

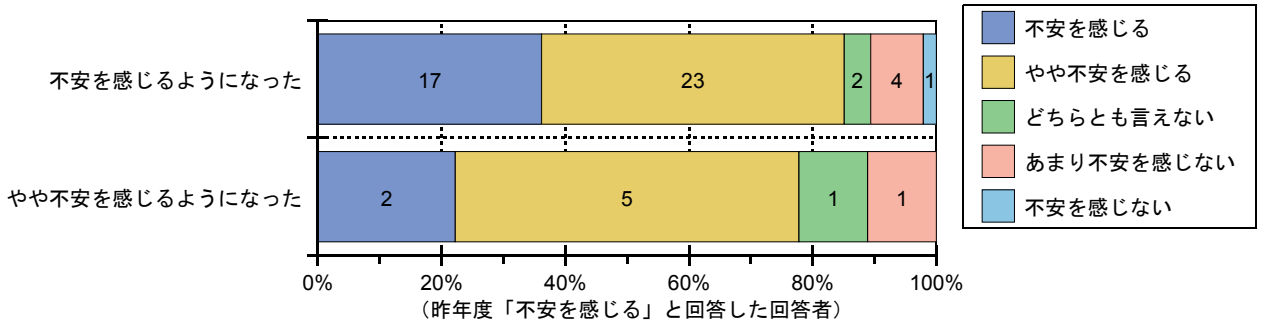

図10－③　　昨年度より不安を感じるようになった人の不安度

この問10は，前の年と比較した不安感の変化を聞くものであるが，単純に現状で不安感があるかどうかのような質問と異なり，回答者全てが，前の年の不安感がどの位だったかということを明確に意識した上で回答できるものでもなく，その時点の不安感の状況に影響されることも予想されるものである。したがって，昨年度の調査結果（一昨年と比較した昨年の不安感）と，今年度の調査結果（昨年と比較した今年の不安感）から，一昨年→昨年→今年と時系列的な不安意識の変化を判断することは難しい。

問11　食品の安全安心を確保するための取り組みについて，どのくらい重要だと思いますか（重要度）。
また，その取り組みに対して現在十分に行われていると思いますか（満足度）。
（５段階評価）

1	食品関係法令の改正	2	食品の安全性を証明する第三者機関認証
3	食品製造企業の自主管理体制の強化	4	食品の衛生・監視指導の強化
5	輸入食品の検査体制の強化	6	県民総参加運動の推進
7	消費者への支援強化	8	食に関する正しい情報の提供
9	食品表示の指導・監視体制の強化	10	違反，事件，事故の速やかな情報公開
11	その他		

重要度	1　大変重要だと思う 4　あまり重要と思わない	2　やや重要だと思う 5　全く感重要と思わない	3　どちらともいえない
満足度	1　十分行われている 4　あまり十分でない	2　大体行われている 5　全く不十分である	3　どちらともいえない

食の安全安心を確保するための取組のうち，大変重要だと考える回答者が多い（重要度が高い）が，十分に行われていないと認識されている（満足度が低い）取組（グラフの２本の折れ線の間隔が広い取組）についてみると，「輸入食品の検査体制の強化」，「違反，事件，事故の速やかな情報公開」，「食品の衛生・監視指導の強化」の順でポイントに開きがあった。

昨年度のアンケート調査結果でも，同様に「輸入食品の検査体制の強化」，「違反，事件，事故の速やかな情報公開」，「食品の衛生・監視指導の強化」の順であった。

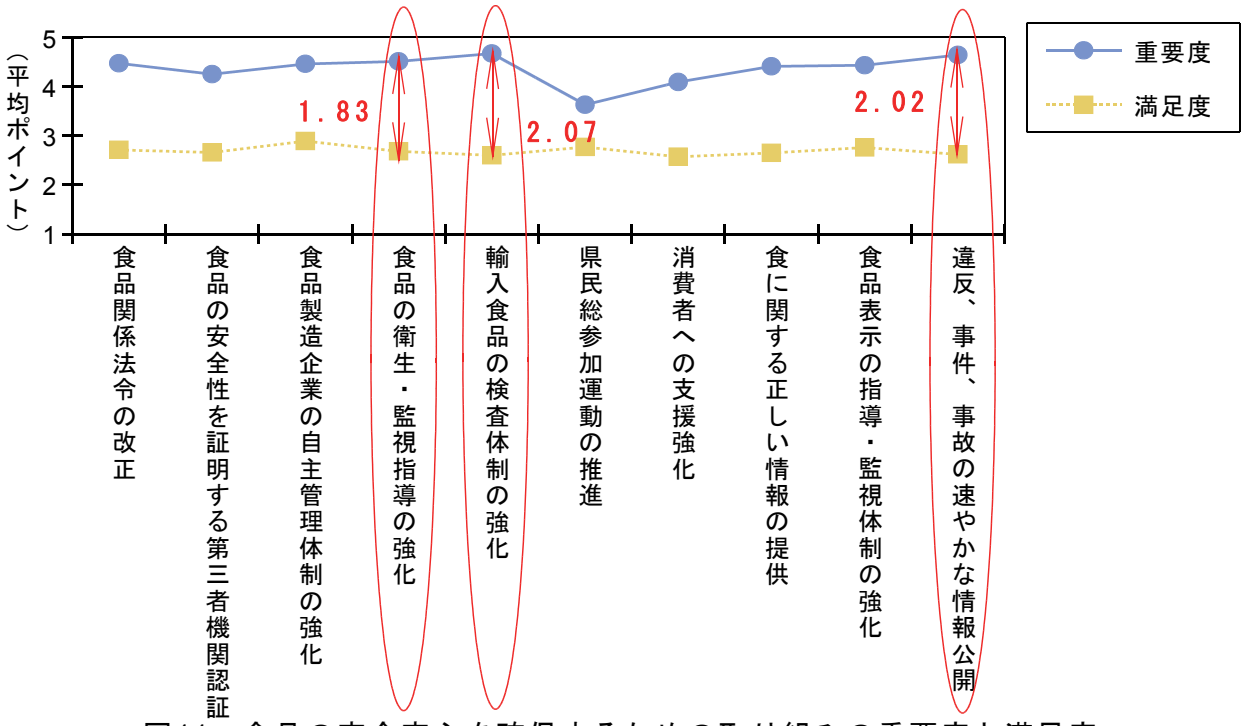

図11　食品の安全安心を確保するための取り組みの重要度と満足度

※ポイントは，「大変重要だと思う」「十分行われている」を５点，「やや重要だと思う」「大体行われている」を４点，「どちらとも言えない」を３点，「あまり重要と思わない」「あまり十分でない」を２点，「全く重要と思わない」「全く不十分である」を１点とし，平均したもの。
赤字の数値は，重要度から満足度を引いた数値。

問12　現在の食に対する価値観について，優先度が高い順に番号を記入してください。（優先度の高い順に３つまで）

1	美味しいものを追求したい	2	高価なものを摂りたい	3	健康に配慮したい
4	安全性に配慮したい	5	食費を節約したい		
6	価格にこだわらず，国産品にこだわりたい				
7	価格にこだわらず，県産品にこだわりたい			8	その他

現在の食に対する価値観について，１位～３位に挙げられた項目を単純合計すると，食に対する価値観としては，「安全性に配慮したい」（450人），「健康に配慮したい」（402人）と回答する人が多く，次いで「価格にこだわらず，国産品にこだわりたい」（230人），「美味しいものを追求したい」（153人），「価格にこだわらず，県産品にこだわりたい」（148人），「食費を節約したい」（121人）が続いている。

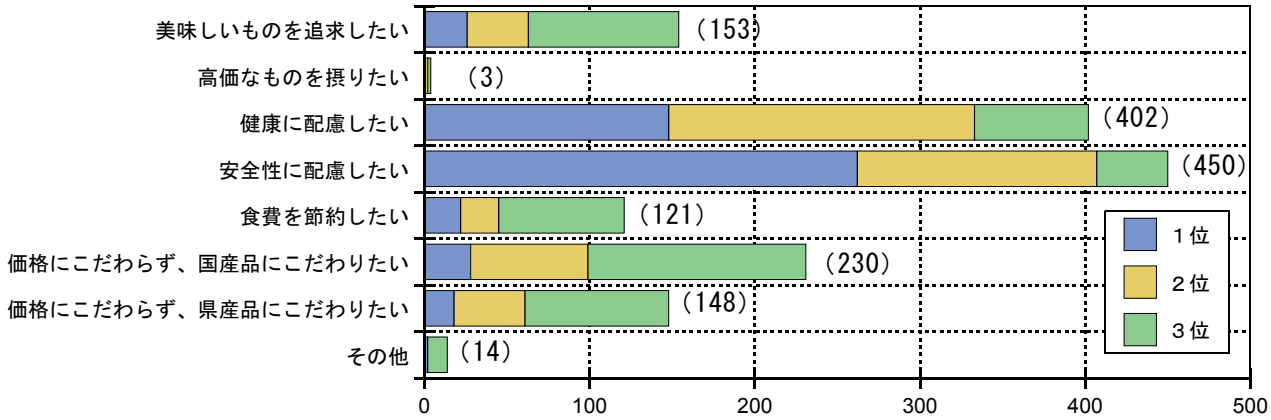

図12－①　食に対する価値観（単純合計）

※（）内は単純合計の数値。単位は人。

男女間に有意差があり，男性は女性より「美味しいものを追求したい」の割合が高い。

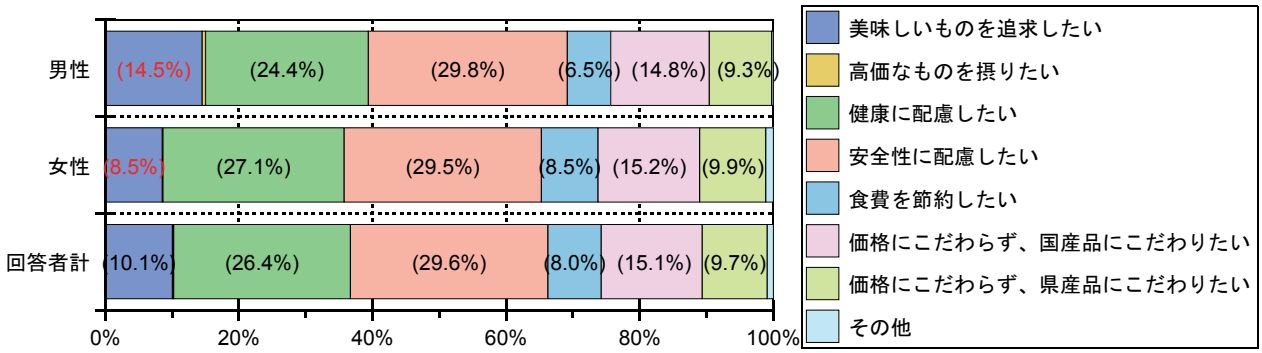

図12－②　食に対する価値観（単純合計，男女別）

年代間にも有意差があり，30代以下は他の年代より「食費を節約したい」が高く「価格にこだわらず，国産品にこだわりたい」が低い。同様に40代も「食費を節約したい」が高く「価格にこだわらず，県産品にこだわりたい」が低い。逆に60代は「食費を節約したい」が低く「価格にこだわらず，県産品にこだわりたい」が高い。70代以上も「食費を節約したい」が低い。問３の輸入食品を選ぶ際の目安の場合と同様，若い世代ほど「食費の節約」を優先していることがうかがえる。

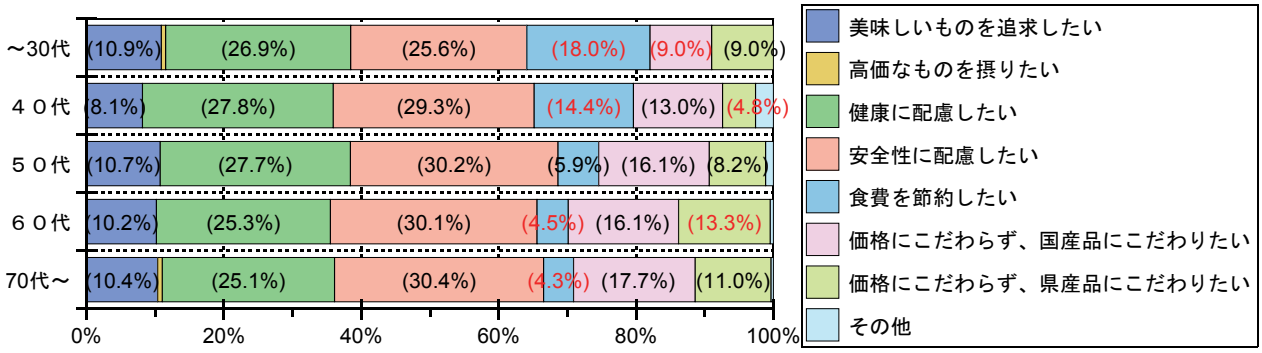

図12－③　食に対する価値観（単純合計，年代別）

一方，１位を３点，２位を２点，３位を１点として各項目の得点を加重合計した場合も，単純合計の場合と同様に，「安全性に配慮したい」（1,119点），「健康に配慮したい」（883点）の順で高く，次いで「価格にこだわらず，国産品にこだわりたい」（355点），「美味しいものを追求したい」（242点），「価格にこだわらず，県産品にこだわりたい」（227点）「食費を節約したい」（188点）が続いている。

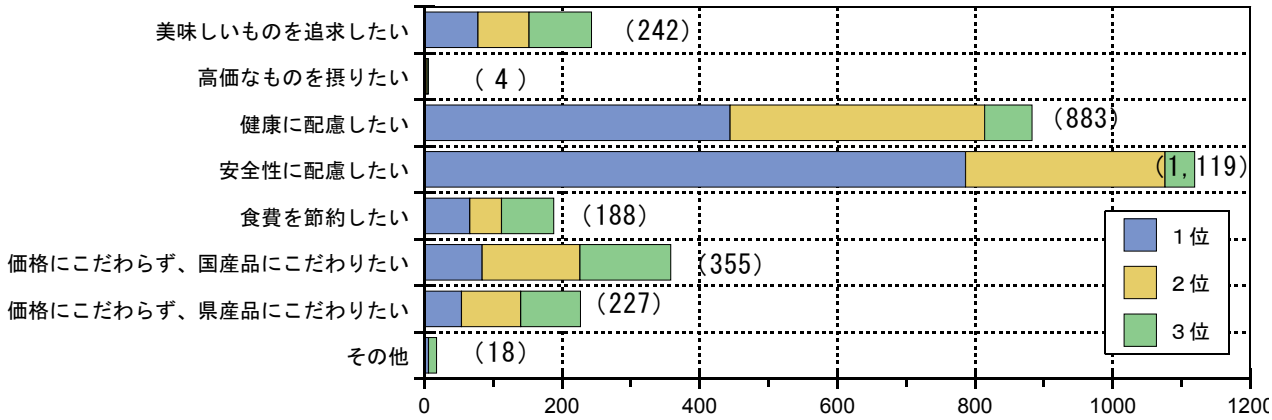

図12－④　食に対する価値観（加重合計）

※（）内は加重合計の数値。単位は点。

加重合計の場合も，男女間に有意差があり，男性は女性より「美味しいものを追求したい」が高い。

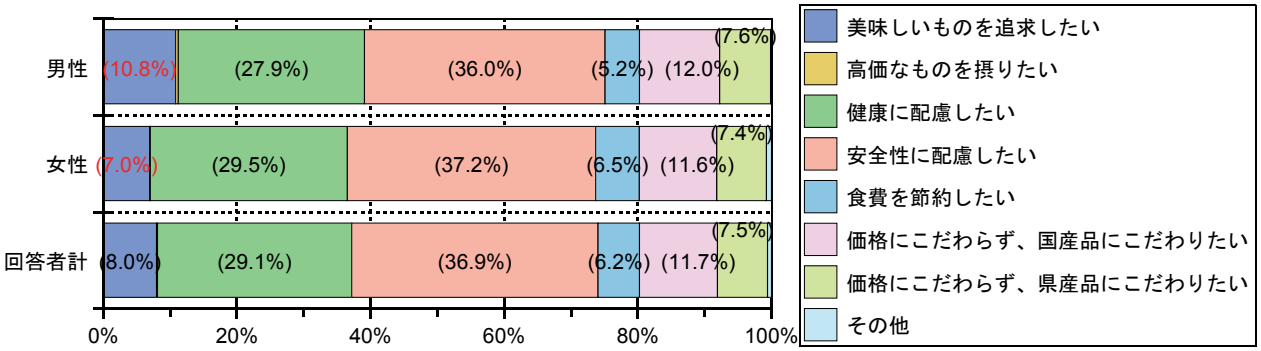

図12－⑤　食に対する価値観（加重合計，男女別）

年代間にも有意差があり，30代以下は他の年代より「食費を節約したい」が高く「安全性に配慮したい」，「価格にこだわらず，国産品にこだわりたい」が低い。同様に40代も「食費を節約したい」が高く「価格にこだわらず，県産品にこだわりたい」が低い。逆に50代，60代，70代以上は「食費を節約したい」が低く，60代は「価格にこだわらず，県産品にこだわりたい」が高い。

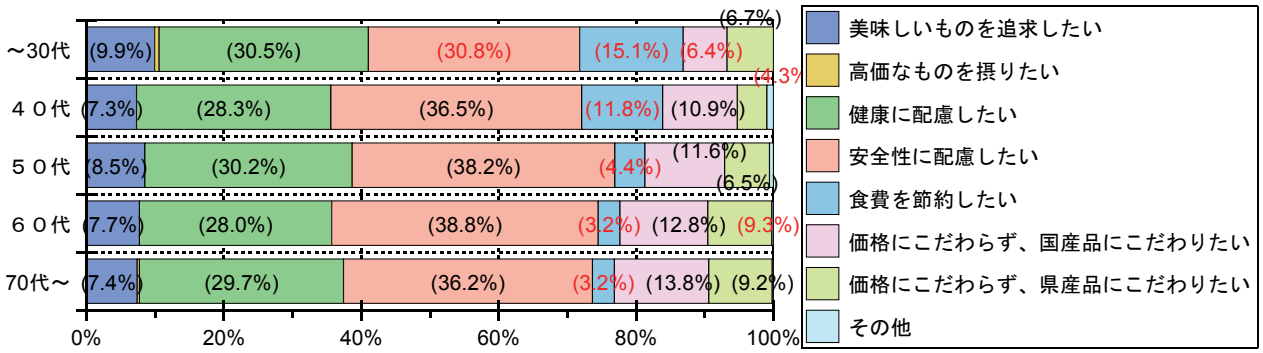

図12－⑥　食に対する価値観（加重合計，年代別）

問13　食の安全安心に向けて，県が取り組むべきこととして望むことはなんですか。（複数回答）

1　生産者の取組への支援	2　安全な農水産物生産環境づくりの支援
3　食関連事業者に対する支援	4　生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底
5　食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底	
6　食品表示の適正化の推進	7　情報の収集，分析及び公開
8　消費者，生産者及び食関連事業者との相互理解の促進	
9　県民総参加運動の推進	10　県民意見の施策への反映
11　（県の）体制の整備及び関係機関等との連携強化	
12　審議会（「みやぎ食の安全安心推進会議」）の機能強化	
13　その他	

食の安全安心に向けて県が取り組むべきこととしては，「安全な農水産物生産環境づくり支援」（12.9%），「生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底」（12.3%），「生産者の取組への支援」（12.2%），「食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底」（11.7%），「食品表示の適正化の推進」（10.2%）に関わることが求められている。

男女間に有意差があり，男性は女性より「県民総参加運動の展開」が高く「生産者の取組への支援」が低い。

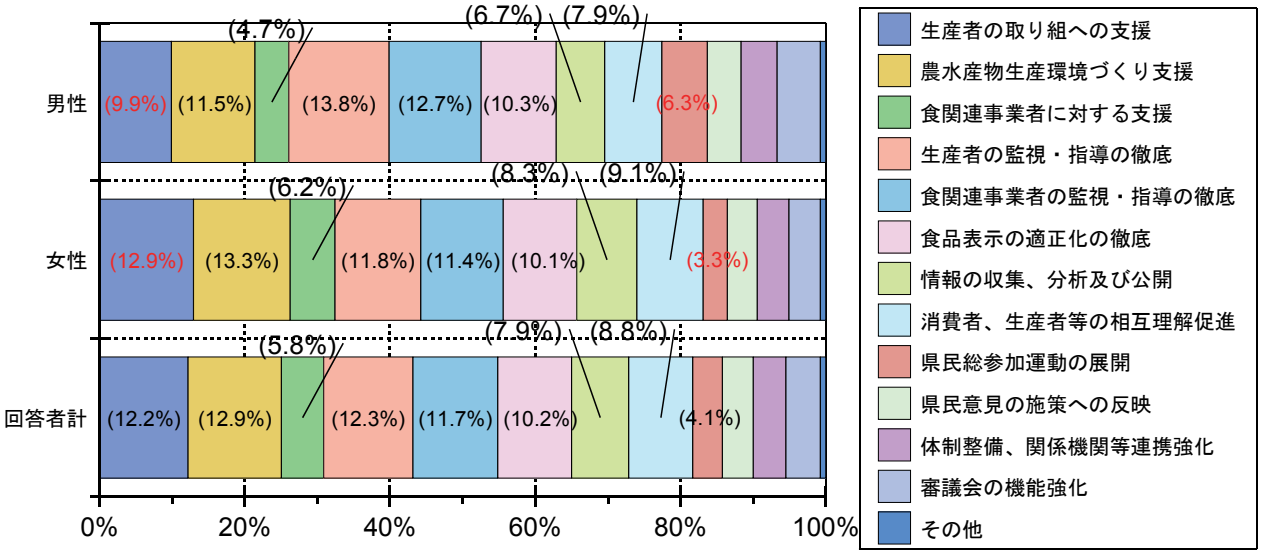

図13　食の安全安心に向けて取り組むべきこと（男女別）

Ⅲ　行政（県）に対する要望等について

問14－１　食品表示ウォッチャーを募集する場合，参加したいと思いますか。（複数回答）

1	参加したい	2	どちらかといえば参加したい
3	どちらともいえない（分からない）	4	どちらかといえば参加したくない（できない）
5	参加したくない（できない）	6	すでに参加している
7	その他		

食品表示ウォッチャーへの参加意向については，「参加したい」（32.2%），「どちらかといえば参加したい」（25.7%），「すでに参加している」（10.3%）を合わせると68.2%の人に参加意向がある。

男女間，年代間に有意差は見られない。

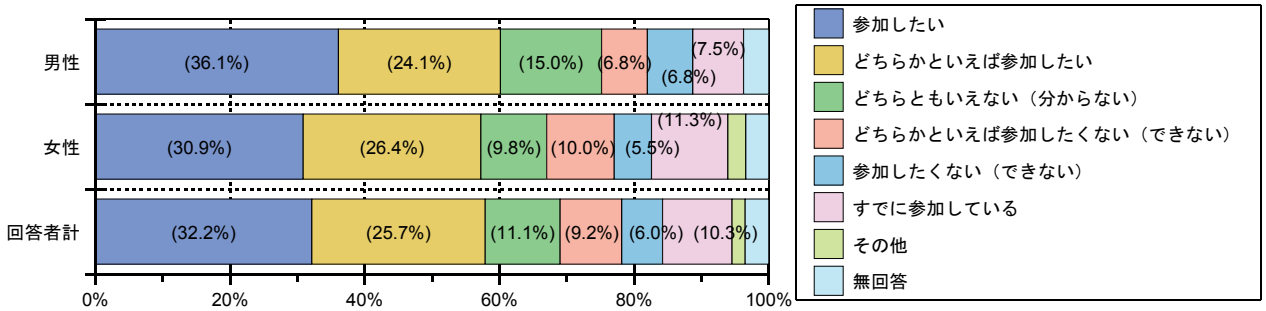

図14－１－①　食品表示ウォッチャーへの参加意向（男女別）

問14－２　食品表示ウォッチャーでは，どのような点を調査したいですか。（複数回答）

1	名称／品名	2	原産地（国）名	3	原材料名	4	遺伝子組換え
5	アレルギー物質	6	食品添加物	7	内容量	8	賞味（消費）期限
9	保存方法	10	製造者名	11	栄養成分	12	その他

食品表示ウォッチャーとして調査したい項目としては，「原産地（国）名」（16.2%），「食品添加物」（16.0%），「原材料名」（13.7%）等に関心が高く，逆に「内容量」（3.1%），「栄養成分」（4.2%），「名称／品名」（5.1%）等，食品の安全性に関連の低い項目への関心が低い傾向が見られる。

男女間，年代間に有意差は見られない。

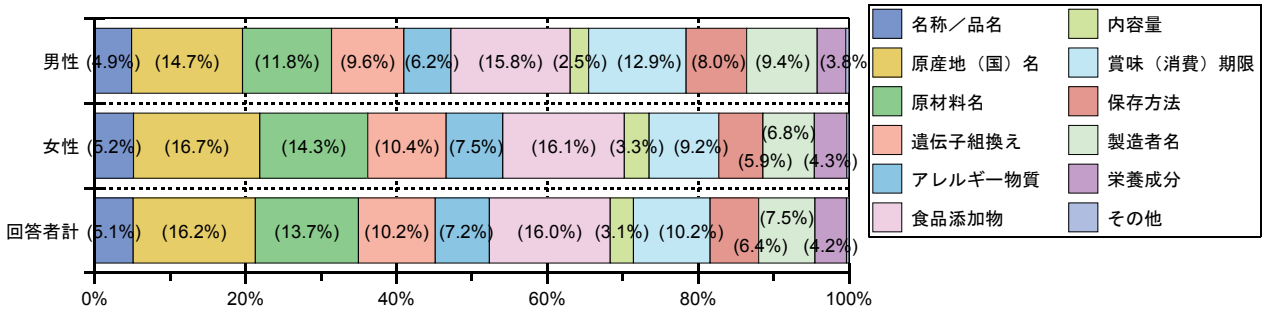

図14－２－①　食品表示ウォッチャーとして調査したい項目（男女別）

問15－１　県庁で毎月１回（２時間程度）の「食の安全安心基礎講座（仮）」を新たに開催する場合，参加したいと思いますか。（複数回答）

1	参加したい	2	どちらかといえば参加したい
3	どちらともいえない（分からない）	4	どちらかといえば参加したくない（できない）
5	参加したくない（できない）	6	テーマや日程によっては参加したい
7	その他		

「食の安全安心基礎講座（仮）」への参加意向については，「参加したい」（22.4%），「どちらかといえば参加したい」（22.4%），「テーマや日程によっては参加したい」（22.6%）を合わせると67.4%の人が参加意向がある。

男女間に有意差があり，女性は男性より「参加したい」，「どちらかといえば参加したい」が低く「テーマや日程によっては参加したい」が高い。

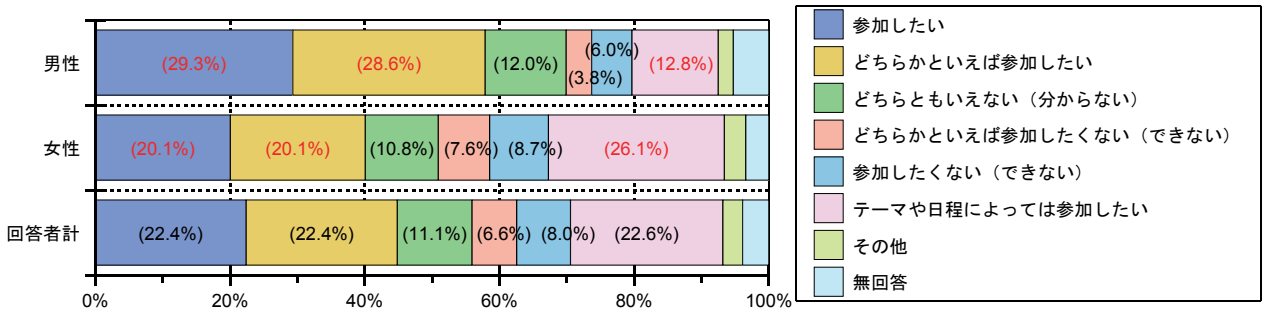

図15－１－①　「食の安全安心基礎講座（仮）」への参加意向（男女別）

年代間にも有意差があり，30代以下は他の年代より「どちらかといえば参加したくない（できない）」が高く，逆に70代以上は「どちらかといえば参加したくない（できない）」が低い。60代は「参加したい」が高く「参加したくない（できない）」が低い。このことから，仕事や子育て・家事等で自由時間の少ない若い世代にとっては，定期開催の講座への参加が難しいことが考えられる。

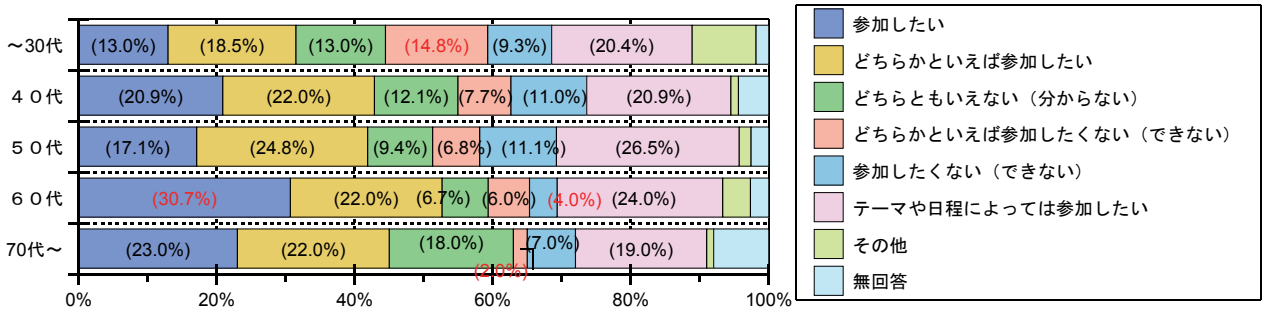

図15－１－②　「食の安全安心基礎講座（仮）」への参加意向（年代別）

問15－２　「食の安全安心基礎講座（仮）」を開催する場合，どのような内容の講義を聴きたいですか。（複数回答）

1　残留農薬	2　遺伝子組換え	3　トレーセビリティ	4　異物混入
5　食品表示	6　輸入食品	7　食品アレルギー	8　有機栽培
9　食中毒	10　家畜伝染病（ＢＳＥ，鳥インフルエンザ）		
11　食品添加物	12　ノロウィルス，貝毒		13　食品事件
14　食料自給率	15その他		

「食の安全安心基礎講座（仮）」で聴きたい講義内容は，「食品添加物」（12.5%），「残留農薬」（11.9%），「輸入食品」（10.3%），「食品表示」（8.9%），「遺伝子組換え」（8.2%），「有機栽培」（7.8%）の順である。

男女間，年代間に有意差は見られない。

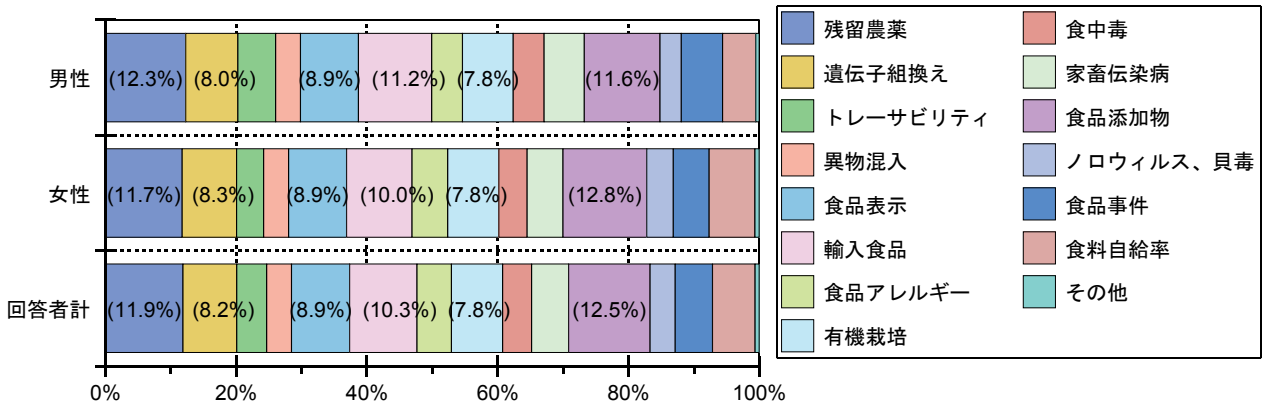

図15－２－①　「食の安全安心基礎講座（仮）」で聴きたい講義内容（男女別）

問16－１　新たに食品工場見学会や生産者との交流会を開催する場合，参加したいと思いますか。（単一回答）

1　参加したい	2　どちらかといえば参加したい
3　どちらともいえない（分からない）	4　どちらかといえば参加したくない（できない）
5　参加したくない（できない）	6　その他

食品工場見学や生産者との交流会への参加意向については，「参加したい」（35.7%），「どちらかといえば参加したい」（35.9%）を合わせると71.6%の人が参加意向があり，「食の安全安心基礎講座」よりは拘束される日数が少ない分，参加意向が高くなったと思われる。

男女間，年代間に有意差は見られない。

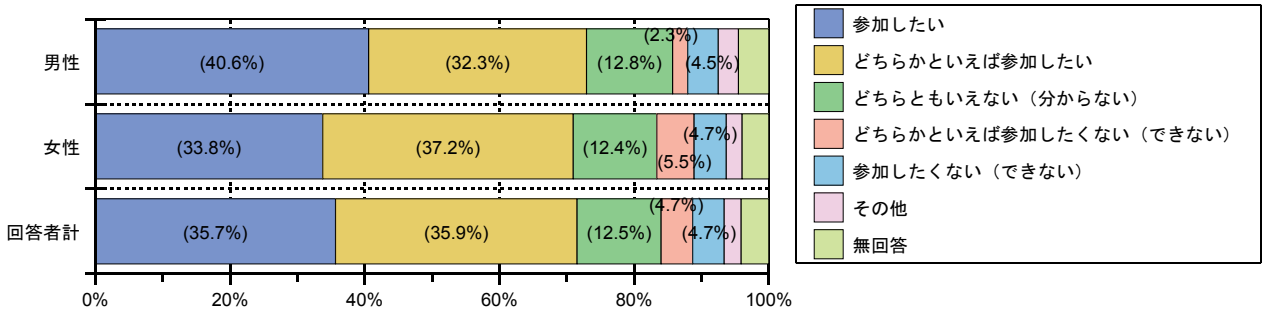

図16－１－①　食品工場見学会や生産者との交流会への参加意向（男女別）

問16－２　食品工場見学会や生産者との交流会を開催する場合，どのような分野を見学したいですか。（複数回答）

1　農産物加工工場（パン　納豆　味噌　豆腐　めん類　漬物　その他）
2　畜産物加工工場（ハム・ソーセージ　牛乳　チーズ　その他）
3　水産物加工工場（かまぼこ　魚の漬け製品　うなぎ加工　その他）
4　その他の食品工場（弁当・おにぎり　レトルト食品　缶詰　その他）
5　農業生産者との交流会（米　麦・豆　野菜　果物　その他）
6　畜産生産者との交流会（酪農　肉牛　養豚　養鶏　その他）
7　水産生産者との交流会（養殖（ギンザケ　かき　ホタテ　ワカメ　ノリ）　その他）
8　その他

各項目とも11％～16％と同程度の参加希望であったが，「農産物加工・畜産物加工・水産物加工・その他の食品加工工場見学」の方が「農業・畜産・水産生産者との交流会」より若干高い参加希望となった。

男女間，年代間に有意差は見られない。

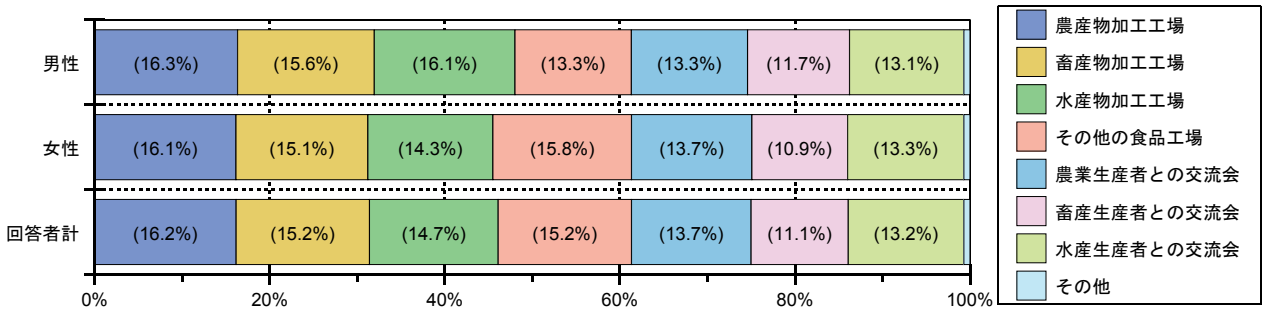

図16－２－①　食品工場見学会や生産者との交流会で見学したい分野（男女別）

個別に見てみると，農産物加工工場では，「漬物」（22.3%）が最も高く，次いで「パン」（19.8%），「豆腐」（16.8%）であった。

畜産物加工工場の場合は，約半数が「ハム・ソーセージ」（45.3%）で，「牛乳」（26.7%），「チーズ」（26.2%）が各１／４程度であった。

水産物加工工場の場合は，「かまぼこ」（38.5%）と「魚の漬け製品」（35.8%）が同程度で，「うなぎ加工」（25.0%）が若干低くなった。

その他の食品加工工場の場合は，「レトルト食品」（37.8%）と「弁当・おにぎり」（34.4%）が同程度で，「缶詰」（25.0%）が若干低くなった。

農業生産者との交流会の場合は，「野菜」（35.8%）が最も高く，次いで「果物」（29.4%），「米」（21.1%）の順であった。

畜産生産者との交流会の場合は，「酪農」，「肉牛」，「養豚」，「養鶏」いずれも22～28%と同程度であった。

水産生産者との交流会の場合は，「かき」（25.8%）が最も高く，次いで「ギンザケ」（21.1%），「ノリ」（19.3%）の順であった。

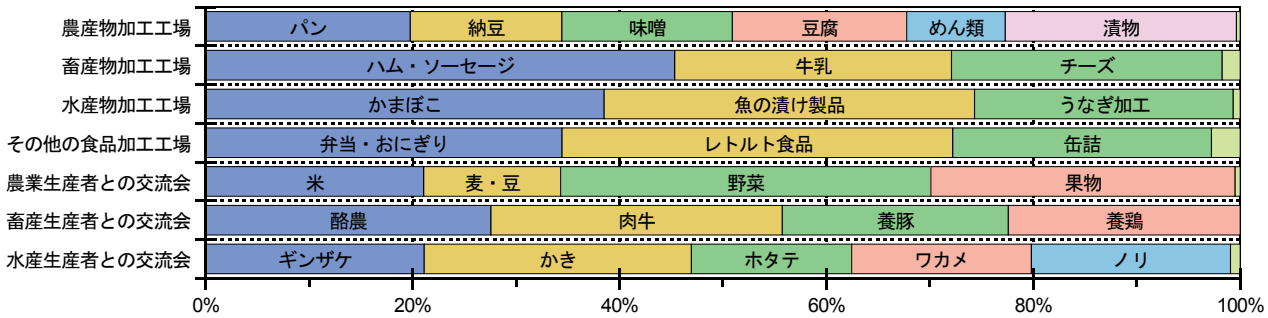

図16－２－③　畜産物食品工場見学会で見学したい分野

問17－１　県からの情報提供について，十分だと感じていますか。（単一回答）

1　十分である	2　おおむね十分である	3　どちらともいえない
4　あまり十分でない	5　十分でない	6　その他

県からの情報提供に対する評価としては，「どちらともいえない」が42.1%と多いが，「十分である」（2.3%），「おおむね十分である」（25.1%）を合わせると27.4%で，「あまり十分でない」（19.5%），「十分でない」（4.5%）を合わせると24.0%であり，肯定的意見が否定的意見を若干上回っている。

男女間，年代間に有意差は見られない。

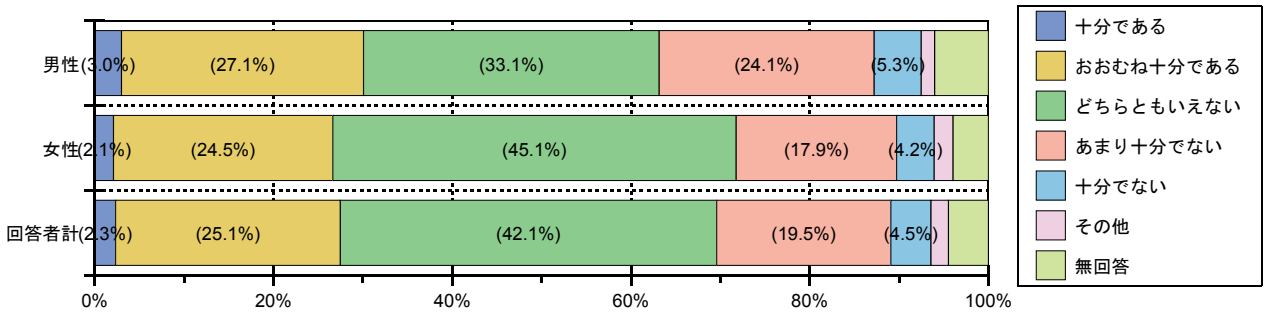

図17－１－①　県からの情報提供についての評価（男女別）

問17－２　県からの情報提供について，どのような内容の情報を知りたいですか。（複数回答）

1　法令等の改正や行政上の手続き	2　食中毒や自主回収等	3　食品表示の見方
4　国や県が行っている施策や事業	5　消費者モニターの活動（セミナーの内容等）	
6　食の安全安心の確保に取り組んでいる生産者・事業者の紹介	7　その他	

県からの情報提供で知りたい内容としては，「食の安全安心の確保に取り組んでいる生産者・事業者の紹介」（25.7%）が最も高く，次いで「国や県が行っている施策や事業」（21.4%），「食中毒や自主回収等」（16.1%）の順であった。

男女間，年代間に有意差は見られない。

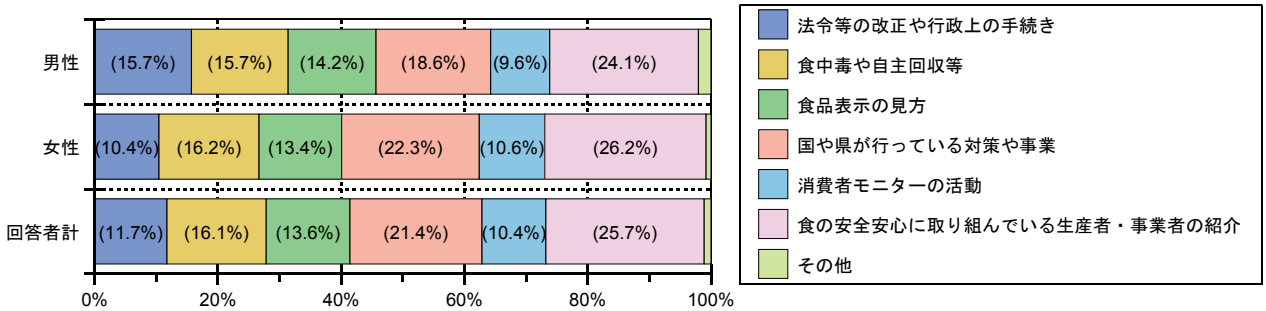

図17－２－①　県から情報提供してほしい情報（男女別）

問18　食の安全安心全般，国や県の施策についての意見，提言（自由記述）

集計は省略。